

令和7年4月1日

実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 埼玉県入間郡越生町上野東1-3-2
管理機関 学校法人一川学園
代表者名 理事長 一川 高一

1 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	おごせまち
管理機関名	越生町
代表者職名	町長
代表者職名	新井 康之

②管理機関（産業界）※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	ひがしにほんでんしんでんわがぶしきがいしゃさいたまじぎょうぶさいたまにししてん
管理機関名	東日本電信電話株式会社埼玉事業部埼玉西支店
代表者職名	支店長
代表者氏名	山崎 大二郎

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	がっこうほうじんいちかわがくえん
管理機関名	学校法人一川学園
代表者職名	理事長
代表者職名	一川 高一

2 指定校名

学校名 清和学園高等学校
学校長名 一川 高一

3 事業名 レジリエントな町と産業を支えるニューノーマル時代のSX人材養成モデルの構築」

4 事業概要

近年 ICT(情報通信技術)やIoT(モノのインターネット)が急速に発展・普及し産業構造が目まぐるしく変化する中、本校は、通信制高校でありながら、全国唯一の国家資格が取得可能な学校であり、工業(自動車科)・家庭(調理科)を有する専門高校に匹敵する新しいスタイル

の高等学校である。

越生町は、埼玉県一の「梅・ゆず」の生産地であるが、この地域産業に関する持続性・継続性が大きな課題の一つである。①梅・ゆず農家の高齢化・後継者不足、②梅・ゆず販売単価の低減化。豊かな自然環境を背景に観光振興策の一つとして全国初の「ハイキングの町」宣言しているが、成果指数は目標値に届いていない。これらの課題に対し、観光資源の有効活用と農産物の元々持っている価値を更に高め、生産性の価値を上げる食品加工(2次産業)流通・販売(3次産業)に取り組み、栽培から収穫、加工、流通・販売といった「梅・ゆず」農家の一連のビジネスバリューチェーンの作業毎に、生徒ならではの新鮮な目線でのアイデアを励起し盛り込み、解決に向けての取り組み活動を推進する。

また、6次産業化を目指した取り組み活動を通して、町が掲げる産業振興と観光の町の発信の中で、越生ブランド振興事業の創設や地場産業の振興・町のPRの推進を念頭に、生徒が主体的に自らの視点で、町の課題を見つけ解決する道を共創し、Connected car としてのキッチンカーの運用や環境に配慮した「CASE」最新技術等の研究を進め、学校魅力化やSX人材育成モデルの構築 Sustainability Transformation を掲げて、持続可能な地域活性化に向けた事業を産業界と地域の関係者とが協働し、解決を図ることができる次世代マイスターの育成を行う。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

- ☒ ア 学校設定教科・科目を開設している
イ 教育課程の特例の活用している

6 事業の実施期間

契約日～ 8年3月31日

7 令和7年度の実施計画

2年間取り組んできた事業成果を地域の多くの人たちに理解していただく活動を通して学校魅力化(学校応援団)と持続可能な地域活性化に向けた事業を産業界と地域の関係者とが協働し、解決を図ることができる次世代マイスターの育成を行うことを目標として教育課程の刷新も行った。自動車科においては「情報Ⅰ」をICT活用の観点から1年次から実施し、「課題研究」を3年次開講であったものを1年次、2年次、3年次へと各学年に振り分けて配置した。調理科においてもICT活用の観点から情報Ⅰの代替として実施してきた「生活産業情報」を削除し1年次から自動車科同様「情報Ⅰ」を実施することとした。

また新たに「商品開発」の時間を設けて、より具体的な取り組み活動を通した中で、下記の取り組み活動を実施する。

- (1) 技能コンクール・チョコレートプロジェクト審査会等へ地元中学校の生徒を招待し、MHSの活動の理解を深める活動の推進を図る。
- (2) 自動車産業界との連携の中、CASE体験授業を強化し、越生町の掲げている「ゼロカーボンシティ」宣言の課題に各種イベント等の機会を通して生徒目線で解決策を模索する活動の推進を図る。
- (3) 高大連携校や自動車関係機関などの専門家による特別授業を通して、最先端の知識や技術を学ぶことができる姿勢を身に付けさせて、地域課題に取り組むことができる人材を育成する。

- (4) チョコレートプロジェクトの継続と新商品開発に向けて越生町にある特産物加工研究所や企業との連携により、梅・ゆずを活用した商品開発に取り組み、バレンタインチョコや新商品の販売を通して、地域をPRし、生徒が商品開発のポイントやブランディングなどの手法を習得する。
- (5) 地域で起業家として活躍している専門家の協力も得ながら、地元食材を活用したレシピ等の開発研究を通して、食品の付加価値化に取り組む活動の推進。
- (6) 自走に向けて、事業成果を越生町内外に広く発信・普及していくため、今までのInstagramや写真、動画といった撮りためてきたデータを整理して、映像コンテンツを作成し、地元のケーブルテレビに協力を仰ぎ、学校説明会や越生町の各種イベント会場等で紹介させていただく機会を増やししながら、「学校応援団」としての支援の輪の拡大につながる広報活動の充実を図る。

<添付資料>

- ・ 令和7年度教育課程表

8 事業実施体制

意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏 名	所 属 ・ 職
大野 松茂	埼玉県産業教育振興会・顧問
新井 康之	越生町・町長
山本 信一	飯能信用金庫越生支店・支店長
長島 祥二郎	越生町商工会・会長
島野 博行	越生町観光協会・会長
市川 剛士	埼玉県商工会青年部連合会・元会長
一川 高一	清和学園高等学校・理事長・校長

事業実行機関の構成（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏 名	所 属 ・ 職
村上 達則	事業推進委員長・マイスター・ハイスクール CEO
山崎 大二郎	東日本電信電話株式会社埼玉西支店・支店長
阿部 将永	株式会社タカインフォテクノ代表取締役社長
関根 睦生	越生町産業観光課・課長
松浦 俊太郎	越生町教育委員会学務課・課長
磯田 厚子	女子栄養大学 名誉教授
大室 智史	東京学芸大学教育学部・講師
一川 高一	清和学園高等学校・理事長・校長

9 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日）											
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
① MHS事業の地元への活動の理解												
② ゼロカーボンの実践取組												
③最先端の技術や知識の習得												
④ 企業と連携した新商品の開発												
⑤梅・ゆずの食の高付加価値化												
⑥ITを活用した成果の発信												
運営委員会			○								○	
推進委員会			○								○	